

# 境川かわまちづくり計画の検討

## Considerations for Sakai River Town Planning

水循環・まちづくり・防災グループ 研究員 阿部 充  
 審議役 土屋 信行  
 水循環・まちづくり・防災グループ 研究員 北澤 史  
 水循環・まちづくり・防災グループ 次 長 風間 聡  
 水循環・まちづくり・防災グループ グループ長 清水 晃

### 1. はじめに

千葉県浦安市のほぼ中央を流れる一級河川利根川水系境川は、延長約 4.8km の河川である。かつては漁師まちとして船が行き交うなど生活に密接し、賑わいをもたらしていた河川であった。現在も様々なかたちで多くの市民によって利用され親しまれている浦安市のシンボリックな河川であるが、その水辺空間は十分に活かされていない状態である。

本検討は、境川とその周辺を含めた水辺空間の利活用促進を目指すことを目的としたかわまちづくり計画の策定経緯及び計画概要について報告するものである。

### 2. 検討経緯

二瓶、八町らによる既報の通り、浦安市では境川に関して修景整備検討を経て、かわまちづくりの検討を継続的に行っている。

令和 5 年度は、主に境川で活動する各団体及び地域住民で構成される「境川かわまちを進める会（以下「進める会」という）」を継続開催しながら、各団体の連携内容などについて議論し、更に学識経験者、関係団体、市職員からなる「境川かわまちづくり推進協議会（以下「協議会」という）」の 3 回の議論を経てかわまちづくり計画（案）が作成され、執筆時点（令和 6 年 7 月）で国土交通省に申請されている状況である。

### 3. 境川かわまちづくり計画の概要

「かわまちづくり」支援制度における計画期間は原則 5 年である。しかし、境川修景整備検討会や懇談会、進める会にて将来的な境川を見据えた長期的な議論がなされてきたこと、長期的な考えなくして短期的な目標は立てられないことから、長期構想と 5 年間の短期計画の 2 種類の計画を作成することとした。以下に主に長期構想の概要を示す。



図-1 計画期間

### 3-1 基本方針

浦安市は、かつて漁師町だった元町地域から、埋立により境川下流にむかって中町地域・新町地域と計画的に発展してきたという歴史があり、そのため境川沿川は浦安市の歴史がそのまま現れている。そのような歴史的背景をふまえ、「浦安らしさ」を持ったまちづくりを進めるために、川とのつながりを世代を超えて継承していくことが重要である旨を境川かわまちづくりに取り組む理由として冒頭に示すとともに、境川を「浦安の背骨」として位置づけ、さらに、「水・自然環境」「歴史・文化」「水辺・水面活用」の観点から、3つの基本方針を定めた。

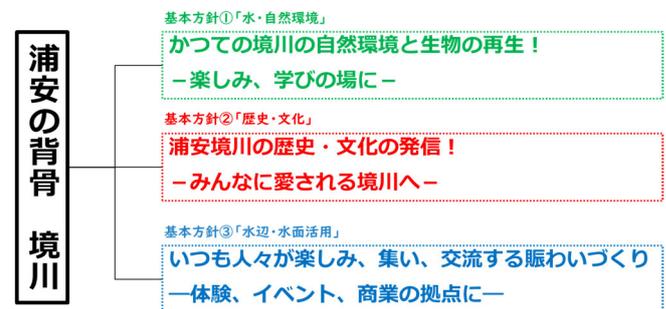


図-2 基本方針

### 3-2 対象範囲

境川かわまちづくり計画の対象範囲は境川全川及びその周辺エリアを含む範囲（図-3）とした。

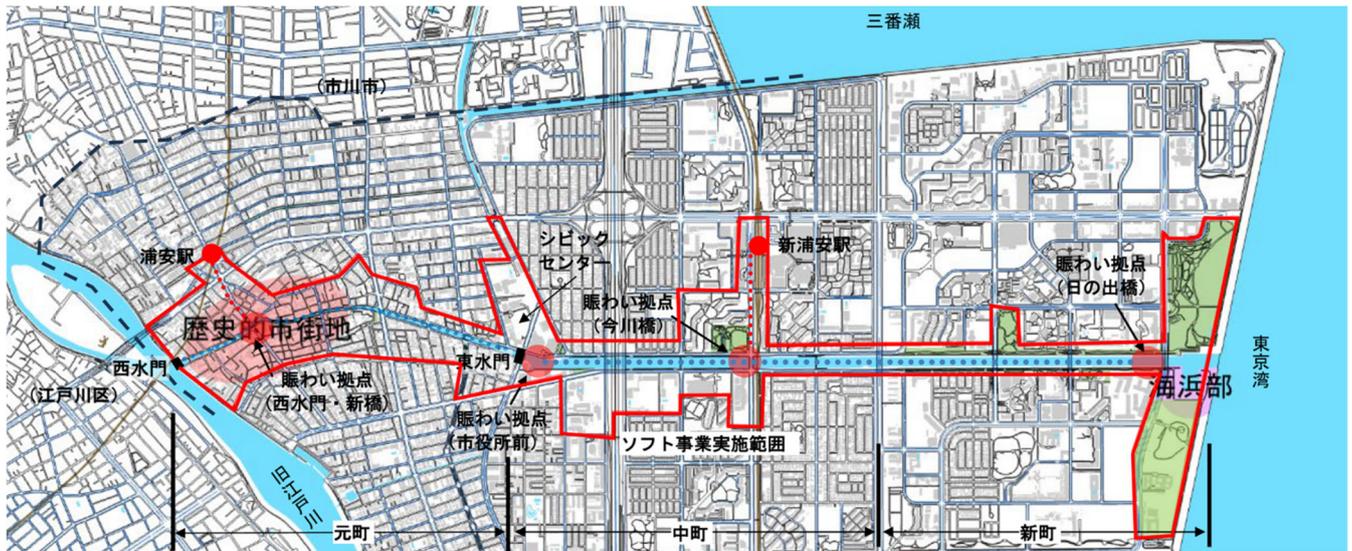


図-3 対象範囲 かわまちづくりの対象範囲（赤枠）

### 3-3 施策概要

基本方針に基づき、水質浄化や観光ツアープログラム、オープンカフェなどのソフト施策を定め、更にそれらソフト施策に応じて散策路整備等のハード施策を計画した。なおソフト事業については、必要に応じて実施メニューの検証と改善及び市場性の確認のための社会実験を実施し、その知見をもとに運用方法等の改善をはかり、継続的に実施可能な事業構築を目指すこととした。

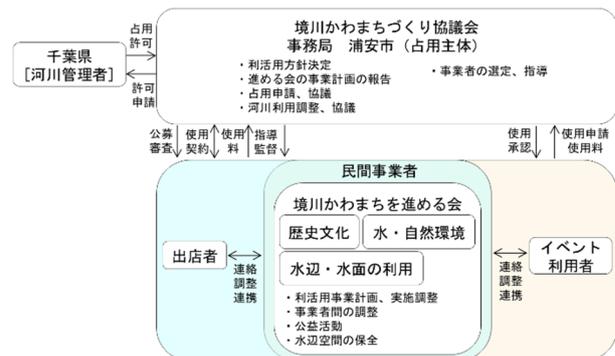


図-4 推進体制

表-1 基本方針に対応したソフト施策・ハード施策

基本方針	ソフト施策	ハード施策
水・自然環境	河川の水質浄化への取組	水質浄化対策工事
	河川の清掃活動への取組	
	多自然川づくりへの取組	
歴史・文化	花とみどりと生命のネットワークづくり	沿川散策路、護岸（小段）の整備
	観光ツアープログラムの開発	
水辺・水面利用	市民団体等で開催する水辺イベントの活性化	水辺アクセス施設、賑わい創出拠点の整備
	「カフェテラス in 境川」の復活	
	オープンカフェ、マルシェ等の事業化	
	アウトドア・水上アクティビティの事業化	

### 3-4 推進体制

将来的に、協議会事務局である浦安市が県から河川空間を占有し、利活用者と利用契約を結び、使用料を徴収しながら運営管理に充当する仕組みを構築していくこととした。

## 4. 境川かわまちづくりの特徴と今後の課題

全国のかわまちづくり計画を概観した上で、境川かわまちづくりは以下の点で特徴的である。

- ①スポットではなく縦断的に連続した区間（全川）を対象とすること
- ②河川以外の道路・公園・都市空間を活用したソフト事業を行うこと
- ③既存団体の活動が盛んで利活用方法が多岐にわたること

よって、かわまちづくりの計画としては、様々な要望や利活用にも対応できる懐の深さを持ち、非常に意欲的な内容になっていると言える。

一方で実現に向けては、体制づくりやルールづくりなど、実運用に向けた課題がある。また、現在境川を活用している人たちが沿川住民以外に、広く浦安市民全体に境川かわまちづくりについて知って頂いたり参加して頂いたりすることが必要である。境川かわまちづくりの計画期間は令和7年度からの開始を予定して

いるが、浦安市では、計画開始年度までの令和6年度の1年間を社会実験の期間と位置づけ、各種取組みを行いながら、人々を巻き込み、運営の仕組みを構築するなど、上記課題の解決に向けた取組みを行っている。

## 5. おわりに

令和6年7月6から7日、「境川で天の川」と題したイベントが開催された。芝生やテーブル・椅子を設置しゆっくりと時間を過ごせる環境を整えたうえで、メガSUP、飲食、水辺で乾杯などのサービスを提供するものであった。準備を急ピッチで進め、夕方開催、広報期間も1週間程度と限定的だったにも関わらず、予想を上回る人たちが訪れ、水辺を楽しんでいた(写真-1~3)。メガSUPや乾杯などで水辺を楽しむのはもちろんのこと、何をすることもなく水辺で時間を過ごしている人たちが多かったのも印象的だった。上述の通り、令和6年度は社会実験で多くの人の巻き込みを試みる予定であるが、今回のイベントは浦安市の水辺に関わる人のポテンシャルの高さを実感し、また、将来の水辺の風景実現を大いに期待させるものであった。



写真-1 メガ SUP の様子



写真-2 多くの人が参加した「水辺で乾杯」



写真-3 日没後に水辺でたたずむ様子

最後に、本研究を進めるにあたり、浦安市道路整備課の皆様、法政大学陣内特任教授、早稲田大学佐々木教授、境川沿川及び関係団体の皆様には多大なるご協力とご指導を頂きました。ここに厚く御礼申し上げます。

## <参考文献>

- 1) 二瓶智ら：境川修景整備計画(案)の検討，リバーフロント研究所報告 第31号，2020
- 2) 八町裕浩ら：境川かわまちづくりに向けた検討，リバーフロント研究所報告第33号，2022
- 3) 八町裕浩ら：境川かわまちづくりに向けた検討，リバーフロント研究所報告第34号，2023

